

# 2010 年度後期授業アンケートまとめ

## 1. 2010 年度後期授業アンケート結果の概要

### 1-1. 2010 年度の実施趣旨と従来との変更点

#### 【授業アンケート実施目的】

- (1)科目担当者が、個別に授業改善を行うための資料および教育自己点検活動のための資料を得る。
- (2)教員相互に関係科目の改善について課題を共有し、改善を行う資料とする。また、アンケート結果を起点として、組織的に教育改善に取り組む機会を提供する。
- (3)授業運営の学生参画の必要性を意識し、学生の学習姿勢・理解度・満足度を知るための資料を得る。また、学生の積極性と責任意識を喚起する機会を提供する。
- (4)学部・学科としてのカリキュラム改善のための資料を得る。
- (5)大学全体として教育力の向上に必要な点検資料を得る。

#### 【2010 年度変更点】

授業アンケート用紙の記載事項を一部変更した。

- (1)学科等  
・人間発達学部開設に伴い、「O: 英語コミュニケーション」→「O: 日本語日本文学」とし、以降学科順の表記に改めた。  
・「文化政策(1・2回生は都市環境デザイン)」→「都市環境デザイン(4回生は文化政策)」
- (2)コース・専攻  
学部の表記を削除した。

### 1-2. 調査対象

今回の授業アンケートの調査対象科目は 2010 年度後期および春期集中開講、通年開講の全科目を対象とした。アンケート回答者は受講登録をしている学部学生および大学院生とし、原則として特別聴講学生、科目等履修生は対象外としたが、担当教員の判断で特別聴講学生および科目等履修生のデータが一部算入されている場合がある。

### 1-3. 調査期間

【後 期】2011 年 1 月 6 日(木)～1 月 28 日(木)

【春 期 集 中】2011 年 2 月 1 日(火)～2 月 8 日(火)

- ・アンケートは授業時間を 15 分ほど利用し、学生が選択式の回答と自由記述が可能な時間を保証した。
- ・教員が配布と説明をおこない、その時間内に回収する集合調査法を採用した。
- \* 2010 年度後期の回収率は全体で 76.39%となった。

(参考:10 前期 78.28% 09 後期 74.89% 09 前期/77.72% 08 後期/74.89% 08 前期/77.66%)

### 1-4. 調査設計

調査項目の基本構造は前年度までと同じである。

- (1) 学部・学科・回生・コースなどの基本データ
- (2) 授業についての選択項目／16 項目
- (3) 授業についての自由記述／4 項目

基本データおよび選択項目については、マークシートを採用し、データ処理をおこなった。

自由記述は教学向上を目的に、授業担当者に返却した。

## 2. 2010 年度後期授業アンケート結果の特徴と傾向

### 2-1. 授業形態別傾向分析 別紙資料:P1(補足 P2~4)

#### ●講義・演習・語学の平均が上昇したことにより、全体の評価も上昇

**【全 体】**(総合平均/4.13P)\* 前年度より 0.06P 上昇  
2P~5P まで広く分布。3P 未満の数が減少し、5P が増加。全項目のポイントが総じて上昇

**【講 義】**(総合平均/4.03P)\* 前年度より 0.05P 上昇  
2P~5P まで幅広く分布。3.0P未満の割合は他形態より多いものの、4.0P以上の割合が 6 割。  
全項目のポイントが上昇

**【演 習】**(総合平均/4.27P)\* 前年度より 0.06P 上昇  
前年度同期にあった 3P未満がなくなる。4.0P 以上の割合が約 8 割と高い。全項目のポイントが上昇

**【語 学】**(総合平均/4.13P)\* 前年度より 0.06P 上昇  
3P 弱が少しあるものの、4.0P 以上が約 7割と高い傾向。全項目のポイントが上昇

**【実 習・実 技】**(総合平均/4.35P)\* 前年度より 0.03P 低下  
サンプル数が少ないが、ほとんどが 4.0P以上に分布。  
「明瞭」「学習目標」「意欲」「授業外学習」の各項目で僅かに低下

### 2-2. 学科別傾向分析 別紙資料:P5~10

#### ●各学科総じて平均が上昇。ただし、2P 台が見られる学科もある

**【日本語日本文学科(日本語日本文学コース)】**  
サンプル数が演習・講義ともそれぞれ 20 程度と少ないが、前年度と平均が同じ

**【日本語日本文学科(書道コース)】**  
サンプル数が少ないが、演習・講義ともに 4.0P 以上という高い値を示している

**【歴史学科】**  
演習では、ほとんどが 4.0P以上、講義も 3.5P 以上に分布している

**【文化財学科】**  
サンプル数が少ないが、演習は 4.0P以上、講義も 3.5P 以上に分布している

**【児童教育学科】**  
演習・講義ともに 4.0P以上が多くなっている

**【英語コミュニケーション学科】**  
演習・講義ともに 4.0P以上にほとんどが分布

**【現代マネジメント学科(現代マネジメントコース)】**  
演習・講義ともに全体的に 3.5P以上にあるものの、講義で 2P 台がある

**【現代マネジメント学科(救急救命コース)】**  
サンプル数が少ないが、3.0P 台の後半に演習・講義のいずれも分布

**【文化政策/都市環境デザイン学科】**  
演習・講義ともに 3.5P台後半に集中して分布しているが、講義で 2P 台がある

**【看護学科】**  
演習・講義のいずれも 4.0P以上の高い値に分布している

## 2-3. 科目分類別、演習(ゼミ)別傾向分析 別紙資料:P11~17

- 「総合」項目と各項目との相関係数より、「学習目標」「理解」「興味」「触発」の各項目との相関関係が高いことが伺える。

- 【ベーシックスキル(日本語)】(①)
- 【キャリア(デザイン入門)】(②)
- 【研究入門ゼミⅡ(書道)】(③)
- 【児童教育総合演習・保育総合演習(児童)】(④)
- 【書法Ⅵ・書法Ⅶ(書道)】(⑤)
- 【日本語日本文学演習Ⅳ(日文)】(⑥)

### 3. 基本データ

#### 3-1. 基本データ

以下の6項目とした。

- ①科目名 ②クラス ③学部(院)・学科 ④回生 ⑤コース ⑥科目コード

#### 3-2. 授業についての選択項目

下表の16項目について[1: とてもそう思う 2: まあそう思う 3: どちらともいえない 4: あまりそう思わない 5: まったくそう思わない]のうち、もっともよくあてはまると思うもの一つだけにマークさせた。質問の意図を明確に理解させるために、各項目に[明瞭]などのようにキーワードを設定した。

<b>[A. 教員の授業方法について]</b>	
①教員は、指示や授業内容の説明を、はっきりと聞き取りやすく行った。	[明瞭]
②教員は、この授業の学習目標をわかりやすく示していた。	[学習目標]
③教員は、十分な準備を行い意欲的に授業を進めた。	[意欲]
④教員は、学生が自主的に質問や意見を述べられるよう配慮していた。	[配慮]
⑤教員は、授業外での学習方法(資料・課題など)を示していた。	[授業外学習]
⑥教員は、授業を妨害する私語等を少なくするよう環境を保っていた。	[私語・環境]
⑦この授業の内容は、将来役に立つものであったと思う。	[将来]
⑧この授業で感じた授業方法の問題点は、授業期間中に改善された。	[改善]
<b>[B. あなたの理解状況について]</b>	
⑨私は、この授業で学んだ内容をよく理解することができた。	[理解]
⑩私は、この授業の内容に興味・関心を持つことができた。	[興味]
⑪私は、この授業から新たな問題意識や知的好奇心を刺激されることが多かった。	[触発]
<b>[C. あなたの授業態度について]</b>	
⑫私は、この授業にまじめに出席した。	[出席]
⑬私は、この授業に関して教員の指示に従い熱心に勉強した。	[学習意欲]
⑭私は、教員からの指示以外に、自主的に学習して取り組んだ。	[自主学習]
<b>[D. 総合・その他]</b>	
⑮この授業は総合的にみて、良い授業だったと思いますか。	[総合]
⑯☆各担当教員の自由設定項目	[自由]

### 3-3. 授業についての自由記述項目

上記 16 項目への選択項目以外に、自由記述式で授業について以下の 4 つの質問を設定した。

- ① この授業のどの点がよかったですか。
- ② この授業のどの点がよくなかったですか。
- ③ 良くなかった点を改善するためにはどうしたらよいか。
- ④ その他この授業で感じたことを自由に記入してください。

### 3-4. 回収・集計方法

(回収) 以下の方法で回収を依頼した。

- ① アンケート用紙の配布は封筒で行う。
- ② 授業内での回収については、基本的に、学生自身がアンケート用紙を封筒へ直接入れるように科目担当者が指示する。その際、回収封筒の場所を指示するか、または教室内に封筒を回す。そのほかクラスサイズが大きい場合、適宜、列の一番後ろの学生が回収を行うなどして、学生が直接封筒へ入れるよう指示する。
- ③ その際、出席者すべて回収が終わるまで教室から出ないように指示をする。
- ④ 提出については、授業終了後、授業担当者が持参して提出する。

(集計) 回収した封筒について、大学で集約し、処理事業者へ渡す。①基本データと、②授業についての選択項目を機械(OMR)で読みとり、②については読みとり時に[とてもあてはまる]を 5 点、[まあそう思う]を 4 点、[どちらともいえない]を 3 点、[あまりそう思わない]を 2 点、[全くそう思わない]を 1 点に置き換え、各種分析をおこなっている。授業についての自由記述項目については集計や統計処理は一切おこなっていない。集計後、授業担当教員に担当科目のアンケート結果へのコメントや受講者へのメッセージを依頼した。

### 3-5. 回答者のプロフィール

アンケート対象科目の受講登録者総数と、有効回答数および有効回収率は下表のとおりである。

#### 【回生別回収率】

	全登録者数	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生以上	院 1 回生	院 2 回生	院 3 回生以上	回生不明
登録者数	27327	11316	8854	4837	2036	76	20	1	97
有効回収数	20806	9373	6582	3177	1205	149	29	4	287
有効回収率	76.39%	82.83%	74.34%	65.68%	59.18%	196.05%	145.00%	400%	295.88%

(参考: 2009 後期 74.89% 2008 後期 74.89% 2008 前期 77.66% 2007 年後期 76.28%)

\* (有効回答数) = (登録者数) - (欠席者)

\* (有効回収率) = (有効回答数) / (登録者数)

\* 2006 年度以降は、以下のように集計方法を改善したため、回収データ中の無効(不明)データはゼロ。

1) 読みとり方式を OCR から OMR に変更し読み取り精度を高めた。

2) 科目コードと所属を、マークに加えて科目ごとに袋で管理した。

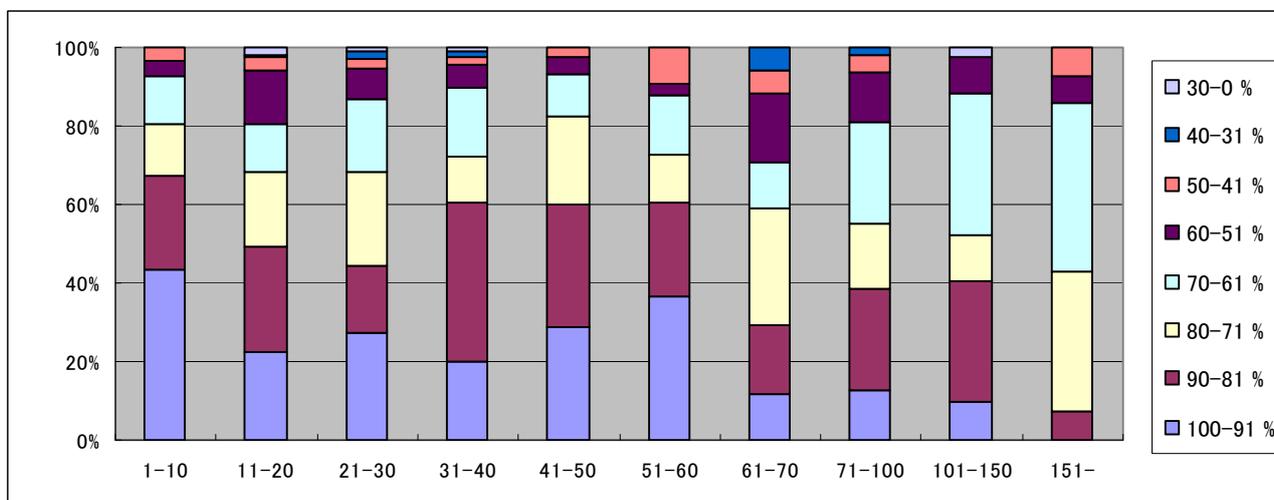
#### 【所属別回収率】

学科	日文	歴史	文化財	児童	英コミ	現マネ	文化政策	看護	院文	院政	院看護	学科不明
登録者数	3034	4097	1941	4102	1228	5110	5169	2318	68	21	8	141
有効回収数	2297	3311	1592	3383	996	3646	3272	1913	67	27	104	198
有効回収率	75.71%	80.82%	82.02%	82.47%	81.11%	71.35%	63.3%	82.53%	98.53%	128.57%	1300%	140.43%

\* 文化財、児童教育、看護の回収率が高く、現マネ・都市環(文政)の回収率がやや低めであった。

【クラスサイズ別回収率】

回収率 度数	100-91%	90-81%	80-71%	70-61%	60-51%	50-41%	40-31%	30-0%	合計
1-10	36	20	11	10	3	3			83
11-20	38	46	33	21	23	6	1	3	171
21-30	37	23	32	25	11	3	3	1	135
31-40	24	48	14	21	7	2	2	1	119
41-50	13	14	10	5	2	1			45
51-60	12	8	4	5	1	3			33
61-70	2	3	5	2	3	1	1		17
71-100	6	12	8	12	6	2	1		47
101-150	4	13	5	15	4			1	42
151-		1	5	6	1	1			14
合計	172	188	127	122	61	22	8	6	706



3-6. 教員による⑩自由設定項目の利用状況

利用率/3.6%

29 科目/807 科目(自由設定項目の利用科目数/アンケート実施全科目数)

\* 10 前期 4.8% 09 後期/2.9% 09 前期/4.0% 08 後期/8.2% 08 前期/5.6% 07 後期/6.1%

以上